

平成 25 年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業



平成 25 年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業〔主催＝（公財）日本武道館・（公財）全日本弓道連盟・日本武道協議会、後援＝文部科学省〕が、8月28日（水）～30日（金）の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、研究者7名、連盟事務局2名、日本武道館事務局2名により実施された。平成22年度以来、3年ぶりに行われた本研究事業は、参加した研究者による1人50分程度の研究発表・授業実践例報告と、指導法研究、指導書の検討を中心に行った。

◆開講式

開講式では、主催者挨拶として公益財団法人全日本弓道連盟 柴田 猛 業務執行理事が「弓道は、自分自身と向き合い、見つめ直すことができる競技。日本の伝統文化を遵守している」と述べ、続いて公益財団法人日本武道館 三藤 芳生 理事・事務局長が「弓道は自己との戦いであり、精神力・集中力・責任力が身につく」と弓道の特性について述べた後、平成24年度全国の中学校における武道授業の実施状況を報告した。

全体打合せ

全体打合せでは、研究者らが自己紹介ののち、自らの弓道歴、在住の都道府県または市内の弓道普及状況、本研究事業へ対しての意気込み等をのべた。

◆研究発表（実践例報告）

初日から2日目の午後にかけて、5名の研究者

によって、所属校などでの弓道授業への取り組みを発表する1人50分程度の研究発表（実践例報告）が行われた。「弓道授業指導の手引（平成23年11月発行）」を使用した授業展開の紹介が、研究発表の随所で見られた。

①福田雅哉（大牟田市立延命中学校常勤講師）

所属校で弓道授業が取り入れられた経緯、1年生～3年生までの年間12時間の授業例、指導計画や教材などを発表した。発表後の質疑応答の中で、視聴覚教材をコマ送りで再生するなどの授業展開への工夫などが紹介された。自身弓道を専門種目としないため、講習会などに積極的に参加し技術や知識を高め、弓道授業を行っている。



②高橋崇子（奥州市立水沢中学校教諭）

「月刊武道」に掲載されている自らの指導法の説明を行い、その後、所属校の授業風景の映像を上映し、授業実践例を説明した。授業は、学校の体育館で行われ、多くの外部指導者の協力を得た授業内容で、髀（ゆがけ）・胸当ての着脱方法の説明、場の工夫として、正規的のより小的を設置して、待ち時間の短縮を図ることなどが紹介された。

③望月尚志（片山学園中学校校長）

冒頭、自らが校長を務め、富山県で初の私立中高一貫校となる片山学園中学校の紹介を行った。弓道授業では、学習教材としてタブレット端末を用いて射法の写真や動画を撮影し、的中結果は専用のアプリに記録させる授業例を紹介した。生徒たちに、受けたい武道授業の希望を1学期に取り、2学期には希望通りの種目の授業が受けられる。

④高橋潤子（静岡聴覚特別支援学校教諭）

聴覚特別支援学校で、聴覚障害を持つ生徒に適した武道として、弓道が授業に取り入れられた経緯等について発表した。授業は多数の外部講師を活用し、特別支援学校ならではの安全面への配慮を発表した。重要な弓道用語などは、手話や指文字ではなく、書いて見せて覚えさせるなどの現場に沿った指導例を紹介した。



⑤朝比奈紀行（都城市立夏尾中学校外部講師）

学校教員の経験のない立場で弓道授業をすることになった経緯について紹介した。所属校は、宮崎県で唯一の弓道授業の実践校である。また、全校生徒8名の小規模校であり、学年を問わず全生徒一緒に体育授業を行っている。「弓道は生徒数が少なく、例え生徒1人であっても授業ができる武道である」と述べた。

◆指導法研究・実技指導

弓道経験の少ない高橋潤子研究者が生徒役となり、弓道経験のない生徒に対しての、手の内の作り方、蹠（ゆがけ）・胸当ての着脱方法、取懸けの指導方法等を指導した。その後、研修室に設置した簡易的を利用し、研究者による納射も行われた。



手の内の作り方の指導



蹠（ゆがけ）着脱の指導

◆全体討議

最終日の全体討議は、①指導書の良かった所、改善の余地 ②弓道選択の可能性、実現に向けて ③感想発表 の3つをテーマに行われた。



指導書に関しては、研究者から「指導書がないことには、弓道授業の実現には至らなかった。指導書をベースに、自分の経験値をプラスアルファして弓道授業を展開している」等の声が聞かれた。弓道選択の可能性、実現に向けては、「弓道部のある学校が、弓道授業を取り入れないことに疑問がある」「自校の特徴や方針を強調したいと考える私立校の方が取り入れやすいのではないか。」等の声が上がった。

◆閉講式

閉講式では、桑田研究者より、「それぞれの学校で素晴らしい授業を展開されていて大変嬉しく思っています。先生方には更なる御研究を重ね、生徒たちのために活躍して頂けたらと思います」との講評があり、本研究事業が終了した。

◇研究者

- 桑田 秀子（栃木県弓道連盟会長）
- 福田 ふみよ（栃木県弓道連盟）
- 高橋 崇子（奥州市立水沢中学校）
- 望月 尚志（片山学園中学校）
- 高橋 潤子（静岡県立静岡聴覚特別支援学校）
- 福田 雅哉（大牟田市立延命中学校）
- 朝比奈紀行（都城市立夏尾中学校）
- ◇全日本弓道連盟事務局
- ◇日本武道館事務局（順不同・敬称略）